

「第20回 愛媛県勤労者定期観測調査」報告書

（2021年5月調査）

2021年9月27日

【はじめに】

一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会では、愛媛県内勤労者の福祉を推進するための基礎資料を得ることを目的に、県内勤労者を対象にした景況調査を実施しています。当報告書では、2021年5月に実施した「第20回愛媛県勤労者定期観測調査」の結果を報告します。調査にご協力いただきました加盟団体・事業所様、並びにご回答いただきました皆様にお礼申しあげます。

【調査概要】

- ① 調査名称：愛媛県勤労者定期観測調査（愛媛県勤労者短観）
- ② 調査対象：一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会に登録する101団体・事業所の勤労者
- ③ 調査項目：勤労者の景況感、仕事の現状、暮らし向き等
- ④ 調査実施期間：年2回5月・11月、第20回調査2021年5月1日～5月31日
- ⑤ 回答数：第20回調査登録者数：450名、回答者数：360名、有効回答数：358
- ⑥ 調査方法：質問票によるアンケート調査(郵送調査法)

【総括】

今回第20回調査（2021年5月）では、愛媛県内の勤労者が見た県内の景況は大幅に回復した。労働時間や賃金収入の回復も見られた。しかし、景況を方向ではなく水準で見ると、依然として水面下にある。「仕事や生活の不安・悩み」としては、「将来の収入」「預貯金など資産の少なさ」「自分や家族の健康」が多かった。

【主な調査結果】

- (1) 景況 愛媛県内の勤労者が見た県内の景況は大幅に回復 p.3～5
- (2) 労働時間 全体の労働時間DIは反転上昇（5.2ポイント上昇） p.7
- (3) 賃金収入 全体の賃金収入DIは反転上昇（11.0ポイント上昇） p.8
- (4) 世帯全体の支出 世帯支出DIは3期連続で下落（7.6ポイント下落） p.10
- (5) 仕事の不安・悩み 「将来の収入」を選択した割合が47%になり突出 p.13
- (6) 生活の不安・悩み 「預貯金など資産の少なさ」「自分や家族の健康」が多かった p.13
- (7) 特別調査「10年前との比較 ～労働時間、賃金収入、暮らし向き～」 回答が最も多かったのは、「労働時間」では「減った」、「賃金収入」では「増えた」、「暮らし向き」では「変わらない」 p.14

第20回 愛媛県勤労者短観調査 回答者属性

アンケート有効回答数	358
------------	-----

性別	人	%
男性	262	73.2
女性	96	26.8

年齢構成	人	%
20歳代	41	11.5
30歳代	103	28.8
40歳代	103	28.8
50歳代	96	26.8
60歳以上	15	4.2

家族構成	人	%
1..あなた(①)	54	15.1
2..あなた/親(①④)	47	13.1
3..あなた/親/その他(兄弟)(①④⑤)	2	0.6
4..あなた/子ども(①③)	17	4.7
5..あなた/子ども/親(①③④)	1	0.3
6..夫婦(①②)	35	9.8
7..夫婦/子ども(①②③)	175	48.9
8..夫婦/親(①②④)	5	1.4
9..夫婦/子ども/親(①②③④)	16	4.5
10..その他(それ以外の組み合わせ)	6	1.7

居住地	人	%
東予	147	41.1
中予	167	46.6
南予	40	11.2
その他	4	1.1

勤務地	人	%
東予	154	43.0
中予	165	46.1
南予	39	10.9

勤続年数	人	%
5年未満	40	11.2
5年以上15年未満	132	36.9
15年以上25年未満	82	22.9
25年以上	104	29.1

勤続年数

平均(年)	17.3
中央値	15
最頻値	10

従業員数	人	%
9人以下	30	8.4
10~49人	13	3.6
50~99人	23	6.4
100~499人	69	19.3
500~999人	97	27.1
1000人以上	126	35.2

業種	人	%
民間製造業	128	35.8
民間非製造業	173	48.3
公務員	20	5.6
その他(医療、福祉団体等)	37	10.3

就業形態	人	%
正規	334	93.3
非正規	24	6.7

労働時間	人	%
20時間未満	15	4.2
20~30時間未満	8	2.2
30~40時間未満	78	21.8
40時間	58	16.2
41~50時間未満	132	36.9
50~60時間未満	49	13.7
60時間以上	17	4.7
NA	1	0.3

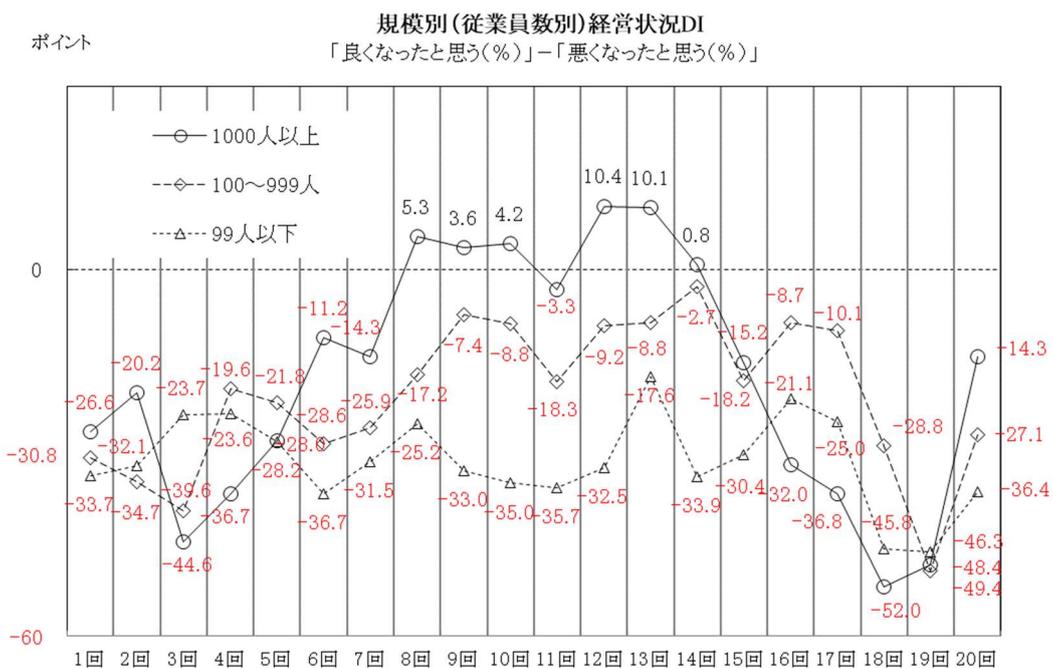
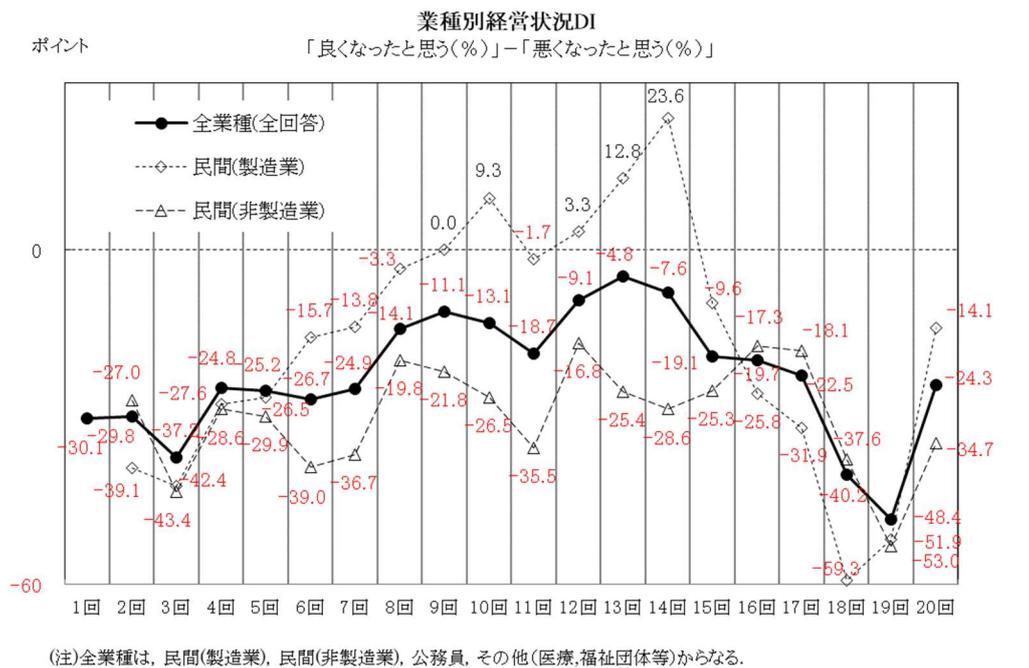
年収	人	%
200万円未満	22	6.1
200万円~400万円未満	95	26.5
400~600万円未満	127	35.5
600~800万円未満	88	24.6
800万円以上	21	5.9
NA	5	1.4

世帯の就労状況	人	%
あなただけが働いている	136	38.0
あなた以外に、フルタイム就労者あり	114	31.8
あなた以外に、パートタイム就労者あり	86	24.0
あなた以外に、フルタイム・パートタイム就労者あり	22	6.1

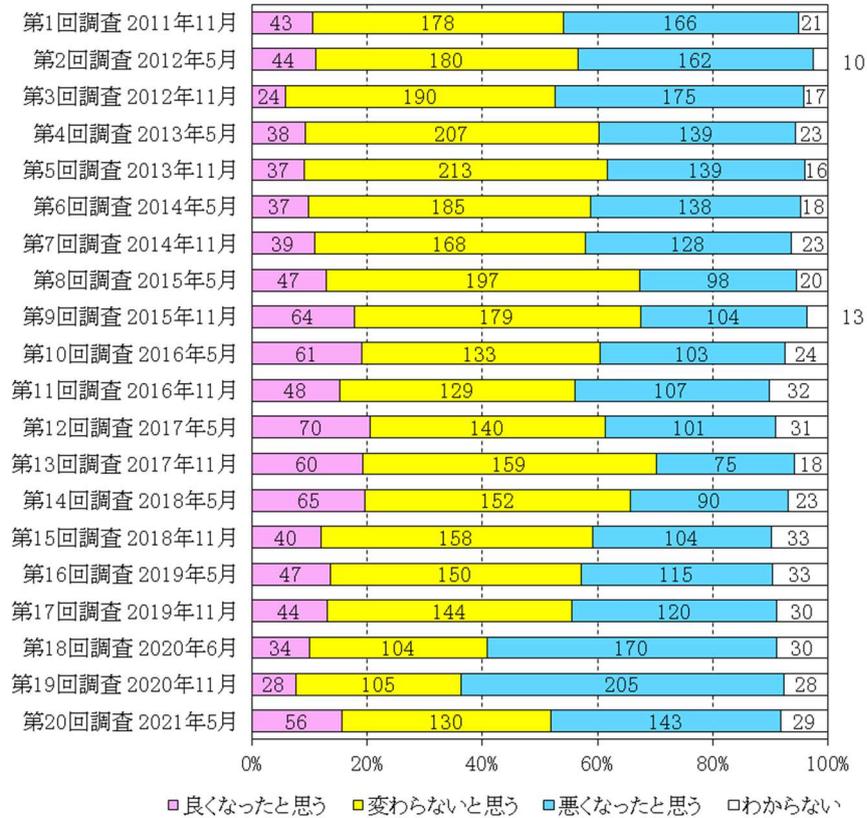
[調査結果]

1. 勤め先の経営状況

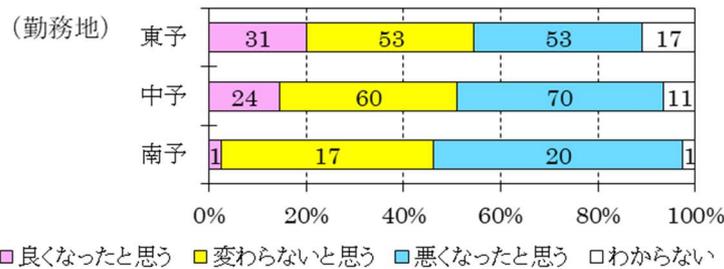
全体の経営状況DIは反転し大幅に上昇した(24.1ポイント上昇)。業種別では、製造業と非製造業のDIは共に大幅に上昇(それぞれ、37.9、18.4ポイント上昇)、規模別でも従業員数1000人以上、100~999人、99人以下の事業所のDIはいずれにおいても大幅に上昇した(それぞれ、34.2、22.3、9.9ポイント上昇)。勤務地別で見ると、東予・中予地域に比べて、南予地域の回答内容が芳しくなかった。



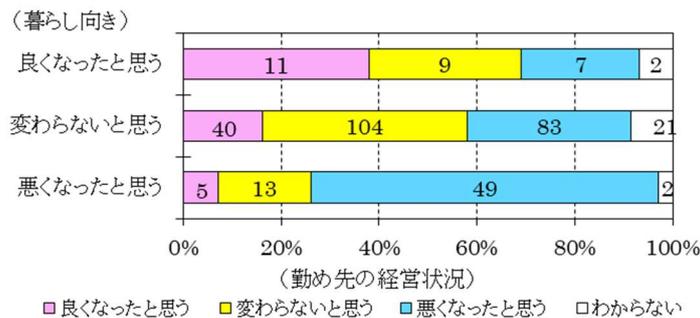
問1 勤め先の現在の経営状況(1年前と比べて)



勤務地別に見た勤め先の経営状況(1年前と比べて)



世帯の暮らし向きと 勤め先の経営状況(1年前と比べて)



1-1. 勤め先の経営状況について、「良くなったと思う」理由、「悪くなったと思う」理由

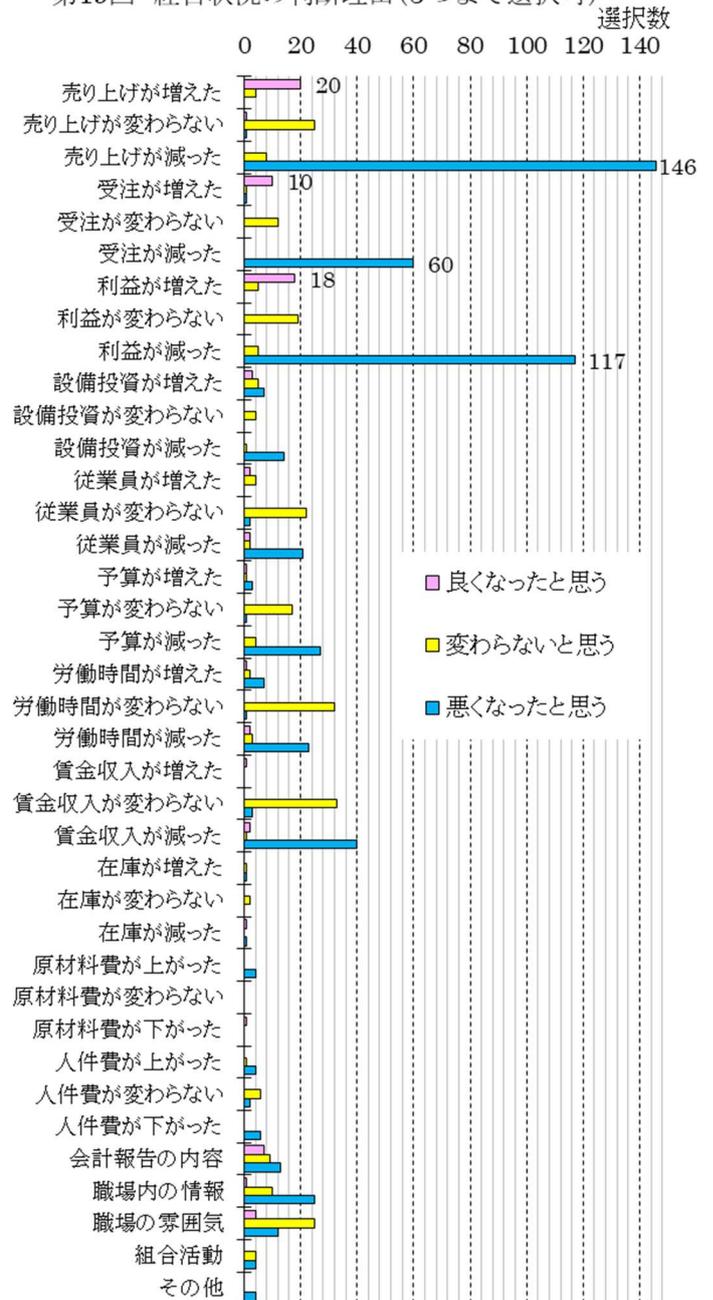
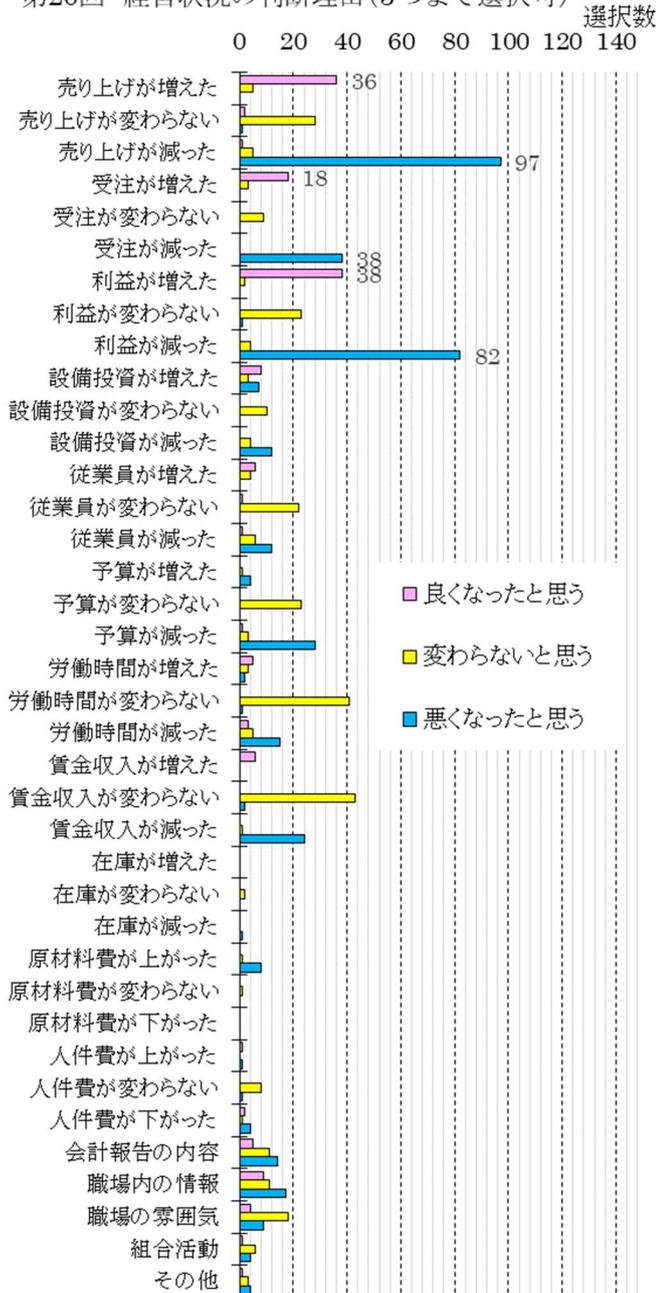
今回第20回調査では、「良くなったと思う」の理由は、「利益が増えた」「売り上げが増えた」「受注が増えた」が上位3つになり、いずれも選択数が増えた。一方、「悪くなったと思う」理由は、「売り上げが減った」「利益が減った」「受注が減った」で前回と同じであったが、逆に、いずれも選択数が大きく減った。

今回第20回調査

前回第19回調査

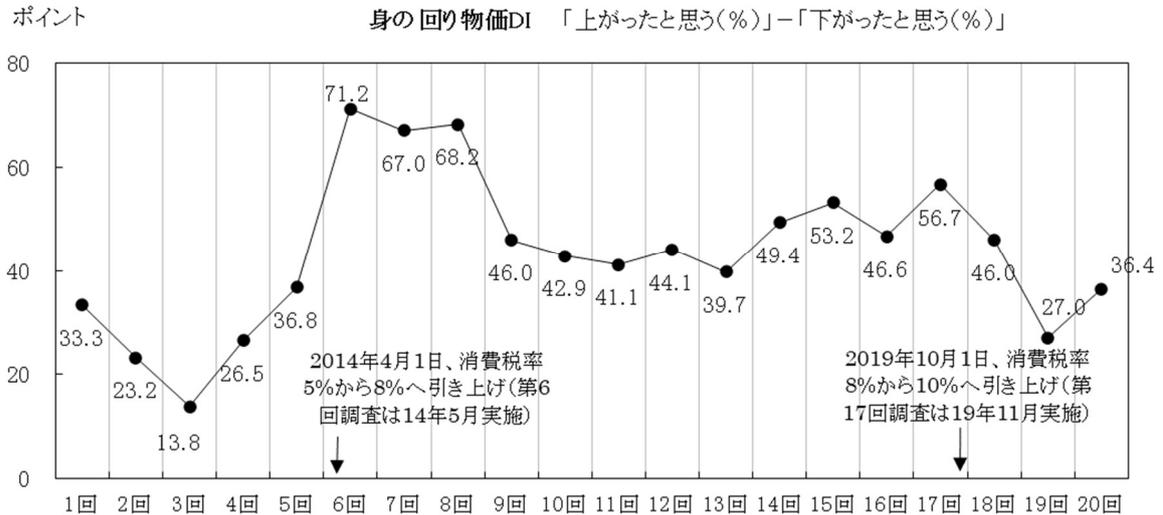
第20回 経営状況の判断理由(3つまで選択可)

第19回 経営状況の判断理由(3つまで選択可)

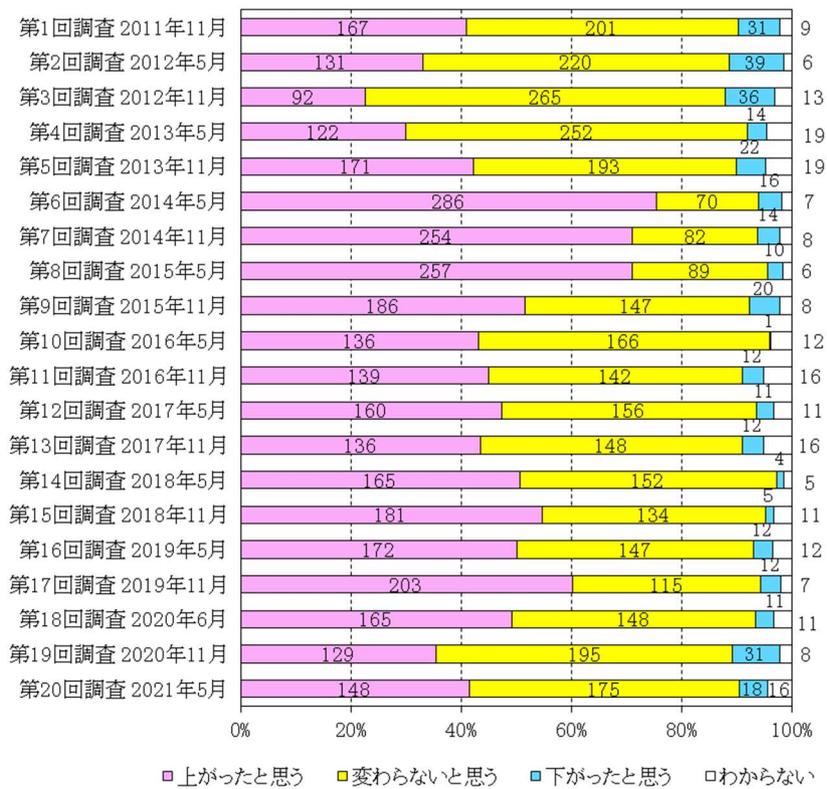


2. 物価

身の回り物価DIは反転上昇した（9.4ポイント上昇）。前回減った「上がったと思う」が従来のように4割を超えてきた。

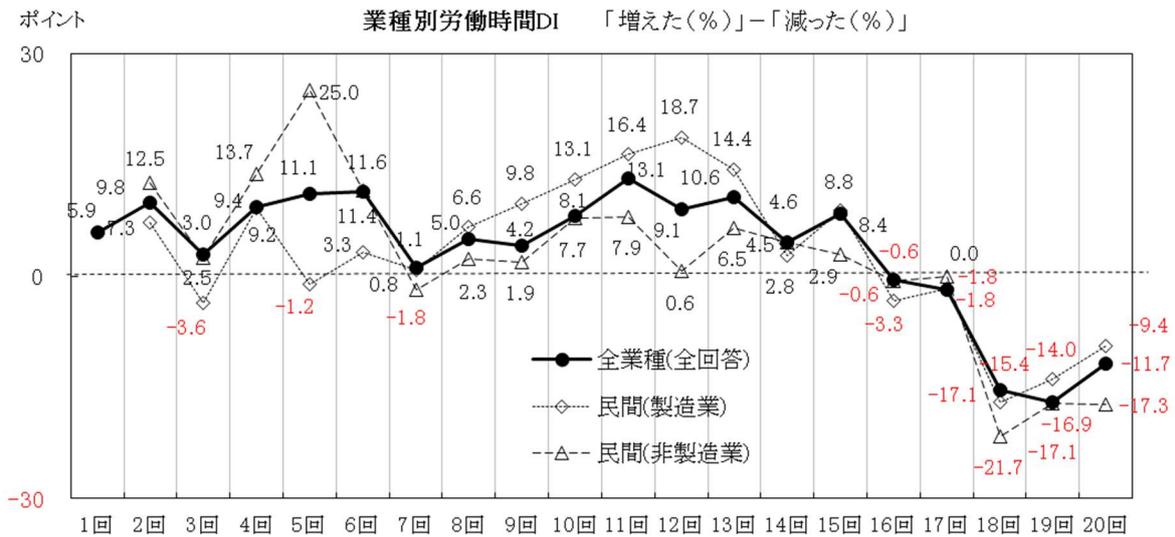


問2 日常生活に関連した商品やサービスの価格(1年前と比べて)

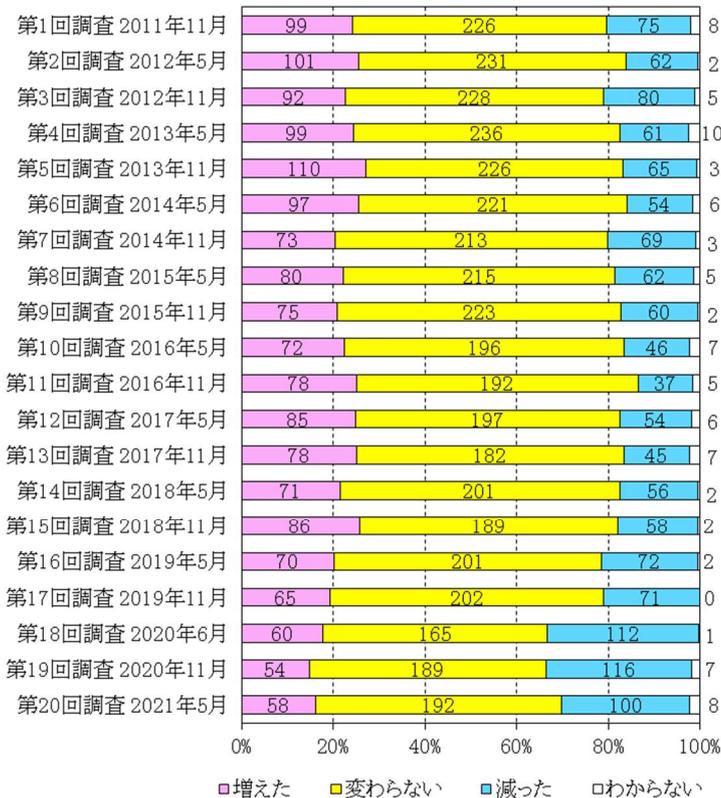


3. 実労働時間

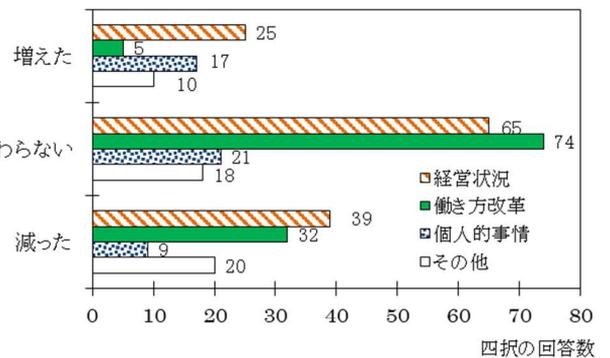
全体の労働時間DIは反転上昇した（5.2ポイント上昇）。労働時間が増えた理由として、「経営状況」43.1%、「個人的事情」29.3%の選択率が高かった。労働時間が減った理由として、「経営状況」39.0%、「働き方改革」32.0%の選択率が高かった。



問3 最近の実労働時間（全業種、残業・休日出勤を含む、1年前と比べて）

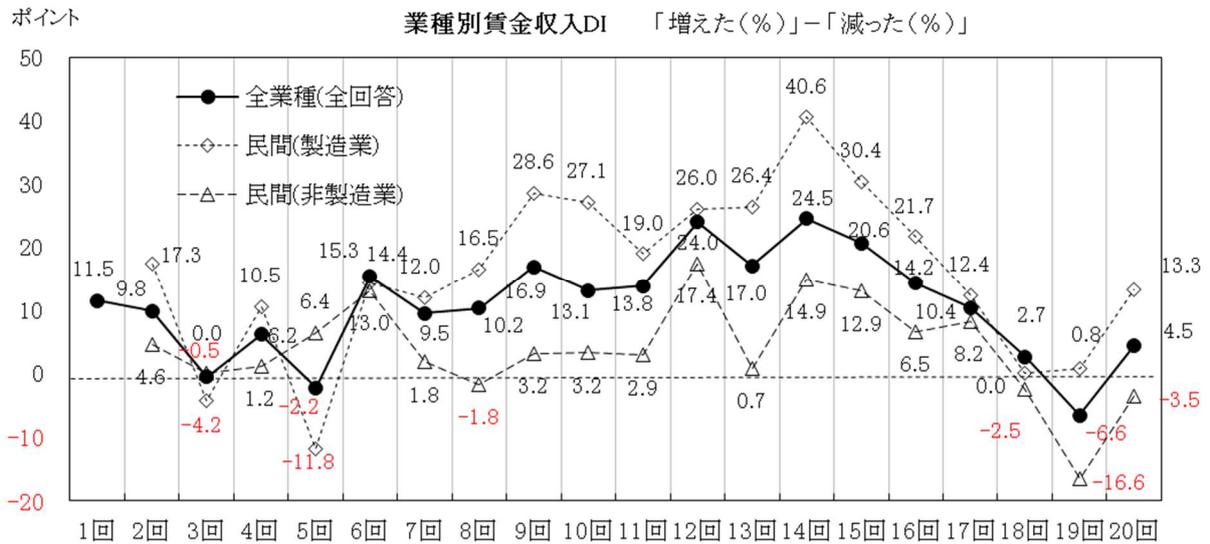


労働時間の増減別に見た変化の理由

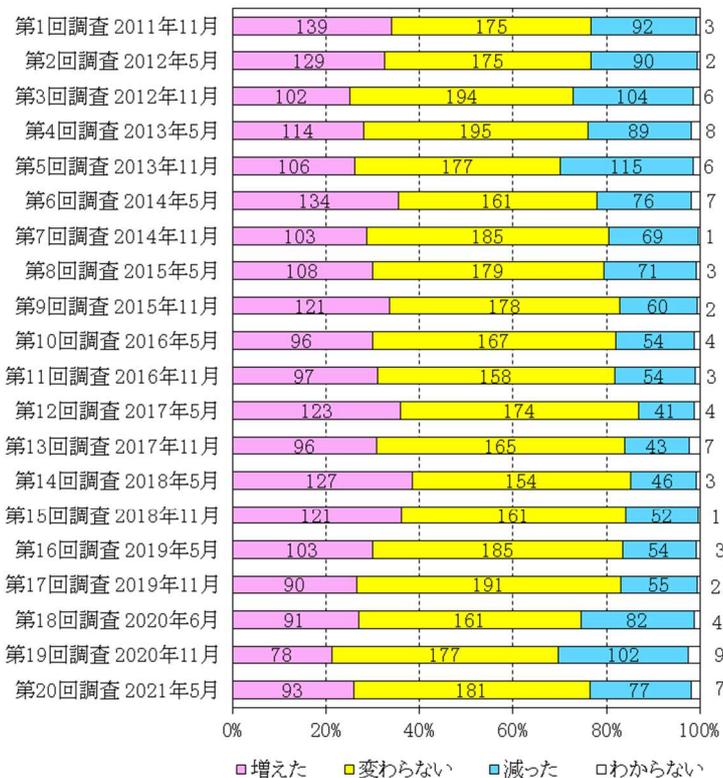


4. 賃金収入

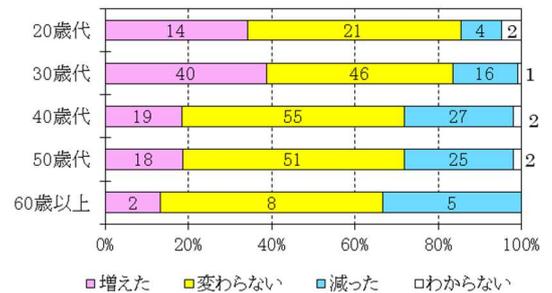
全業種、製造業、非製造業の賃金収入DIは反転上昇した（それぞれ11.0、12.5、13.1ポイント上昇）。これまでの調査同様、年齢が低い層ほど「増えた」の割合が高く、「減った」の割合が低い。



問4 あなたの賃金収入(1年前と比べて)

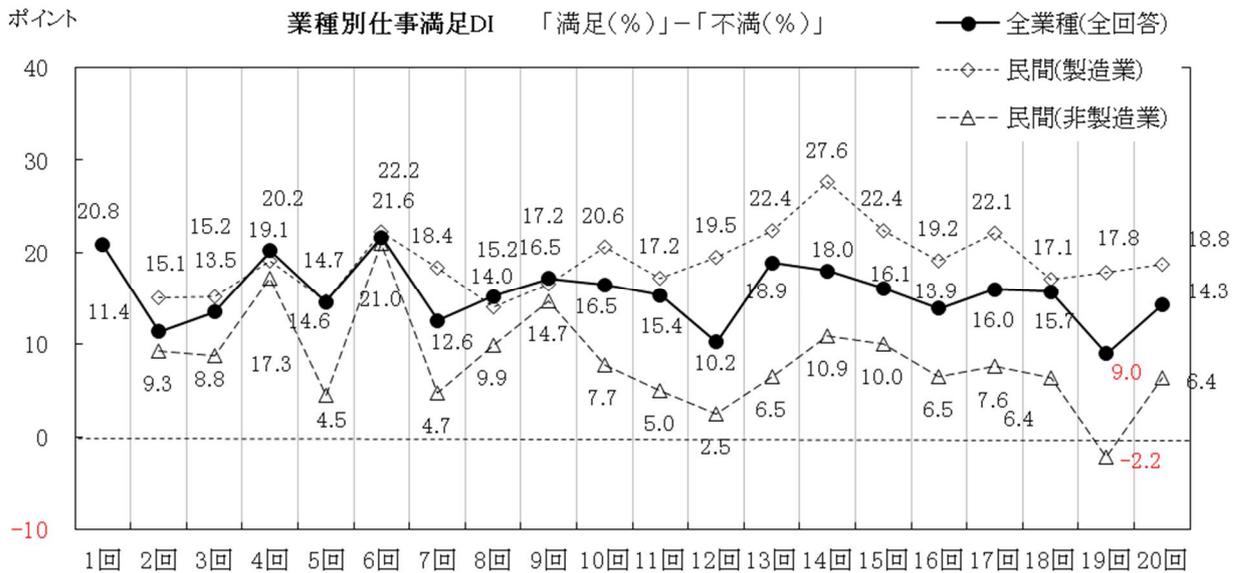


年齢別に見た賃金収入の変化(1年前と比べて)

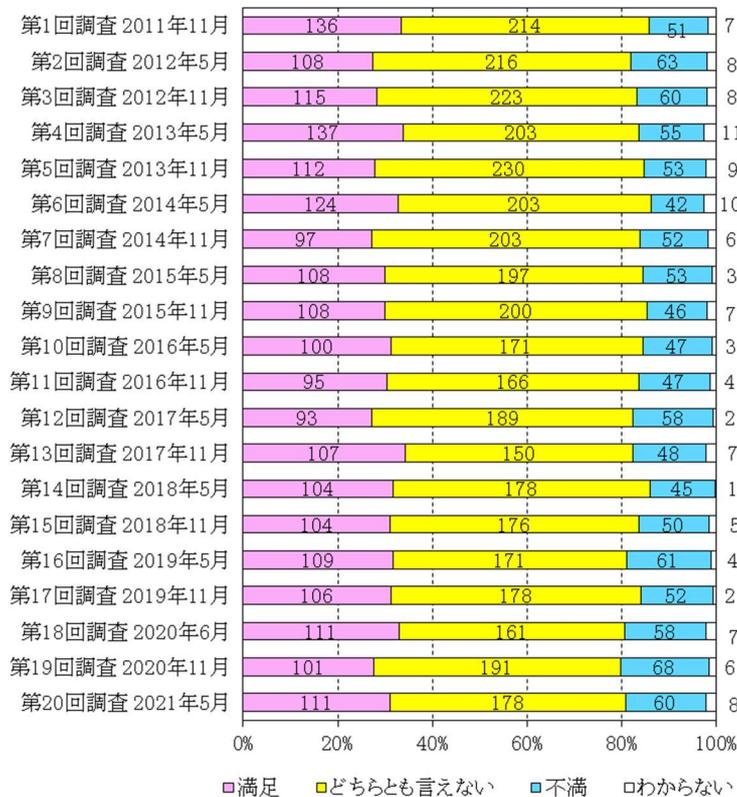


5. 勤め先の仕事の満足感

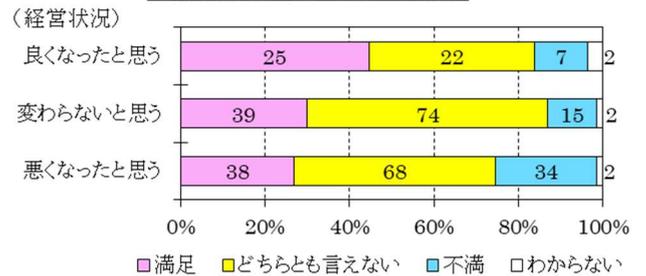
仕事満足DIは反転上昇した（5.3ポイント上昇）。これまでの調査と同様に、勤め先の「経営状況」との間に関連性が見られた。



問5 現在の仕事の満足感



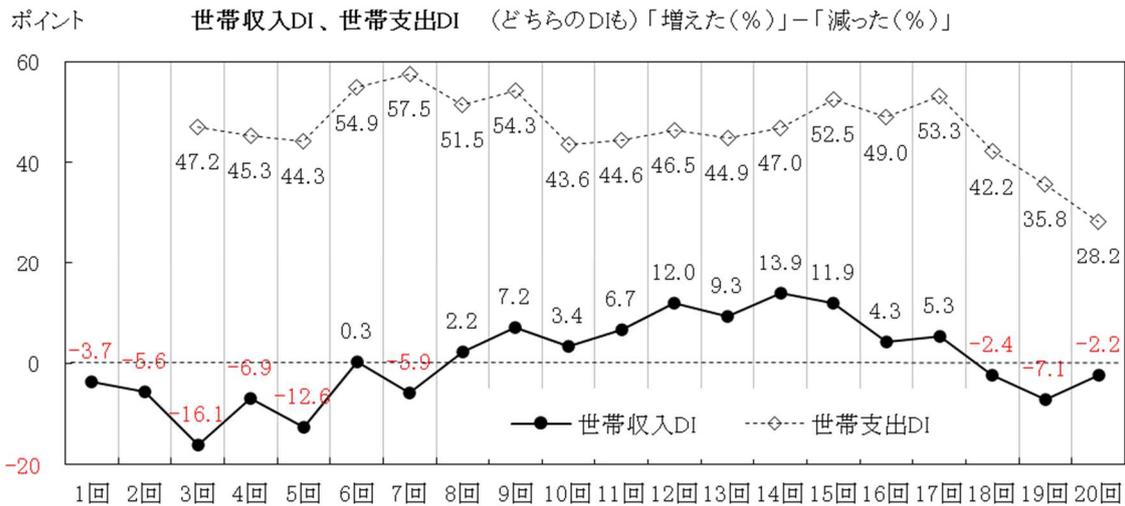
経営状況別に見た仕事の満足感



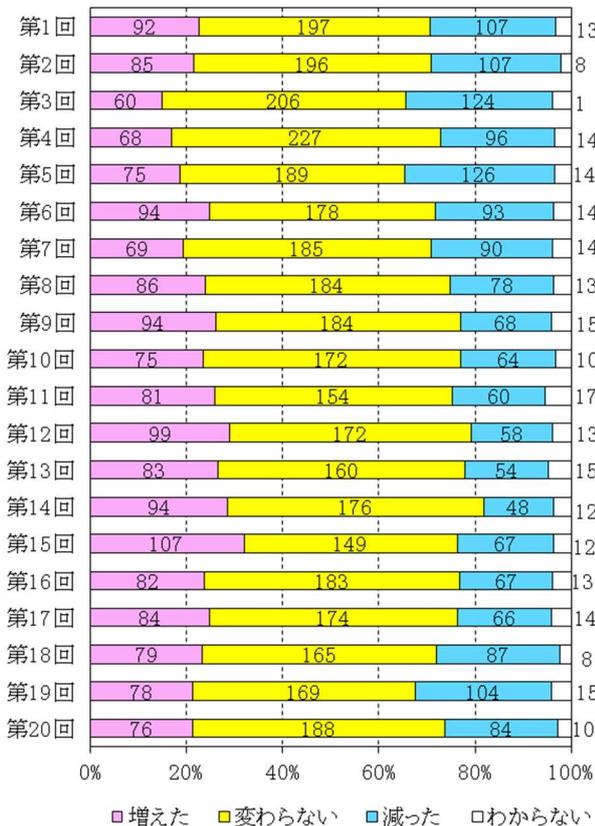
〈暮らし向きについて〉

6. 世帯全体の収入、支出（問7、問8の結果）

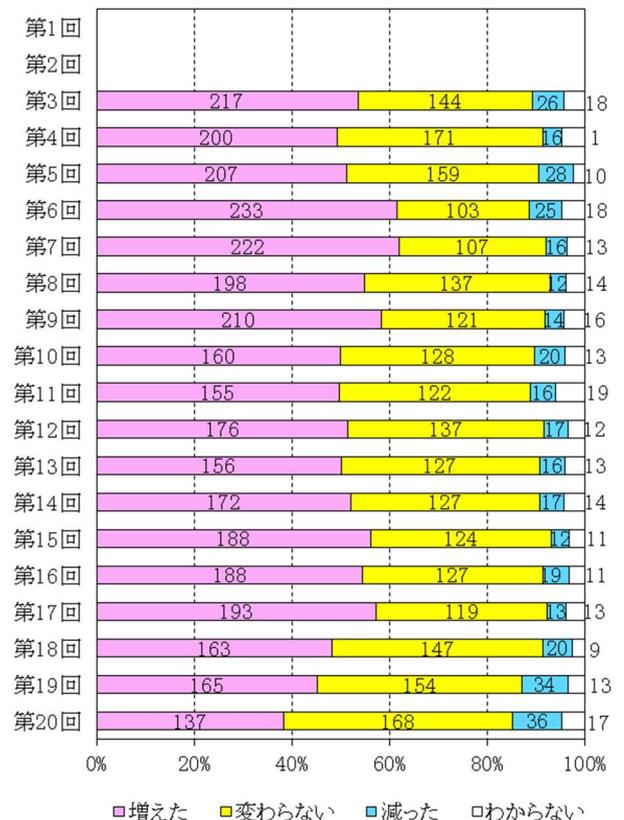
世帯収入DIは反転上昇した（4.9ポイント上昇）。最近の調査で3回連続して、世帯全体の支出が「増えた」という回答の割合が減り続けている。その結果、世帯支出DIは3期連続で下落した（7.6ポイント下落）。収入の一部が、貯蓄に回っていると考えられる。



問7 世帯全体の収入(1年前と比べて)

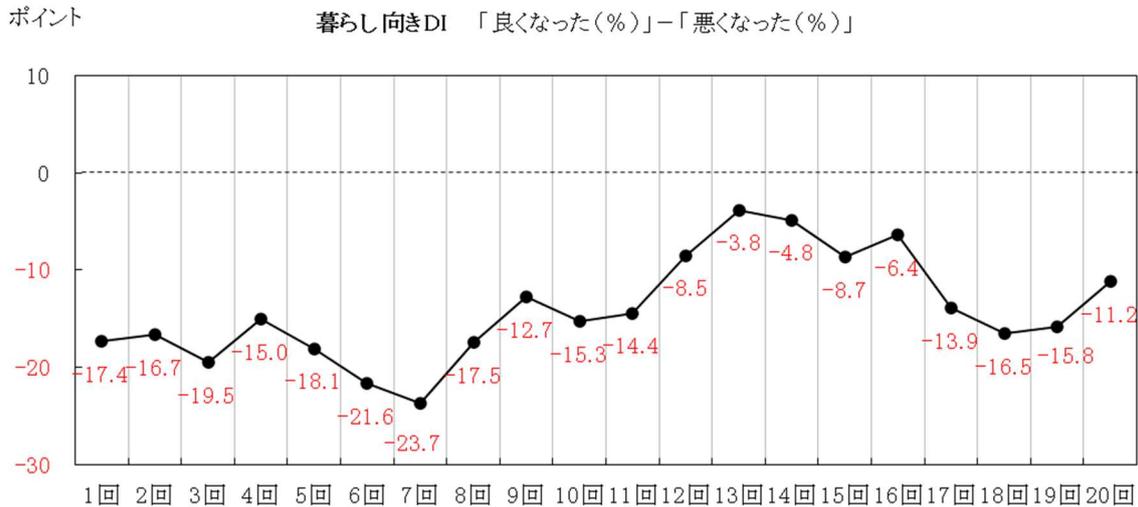


問8 世帯全体の支出(1年前と比べて)

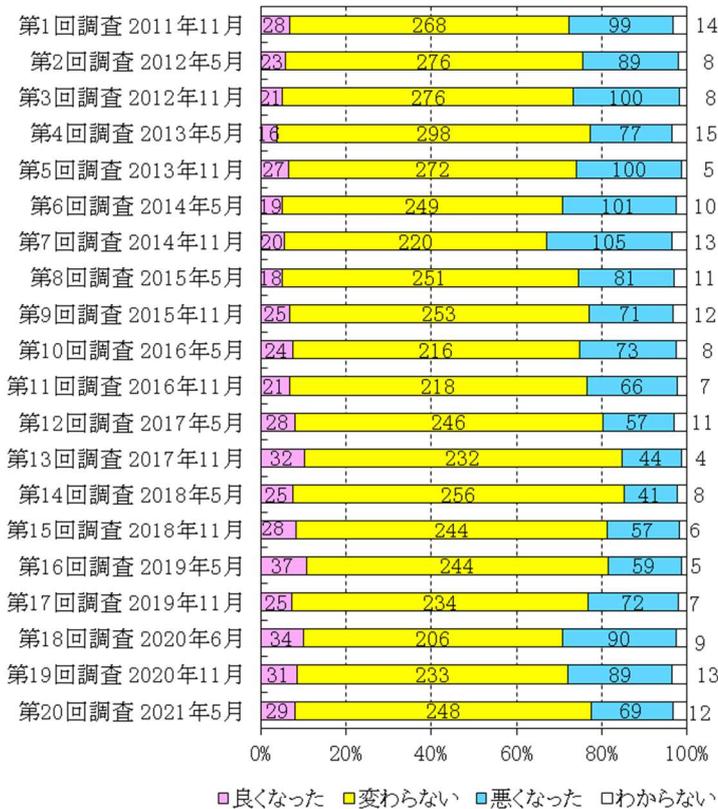


7. 世帯の暮らし向き（問9の結果）

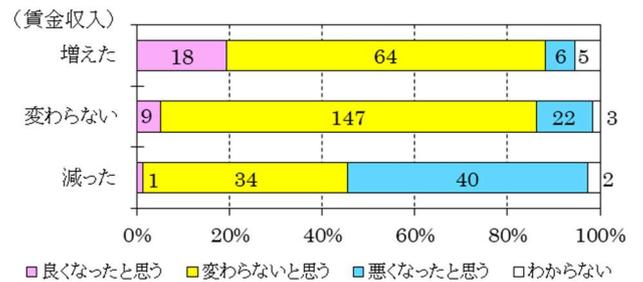
世帯の暮らし向きDIは上昇した（4.7ポイント上昇）。前回調査と同様に「世帯の暮らし向き」は、「賃金収入の増減」（減った）との間に特に強い関連性が見られた。



問9 世帯の暮らし向き(1年前と比べて)

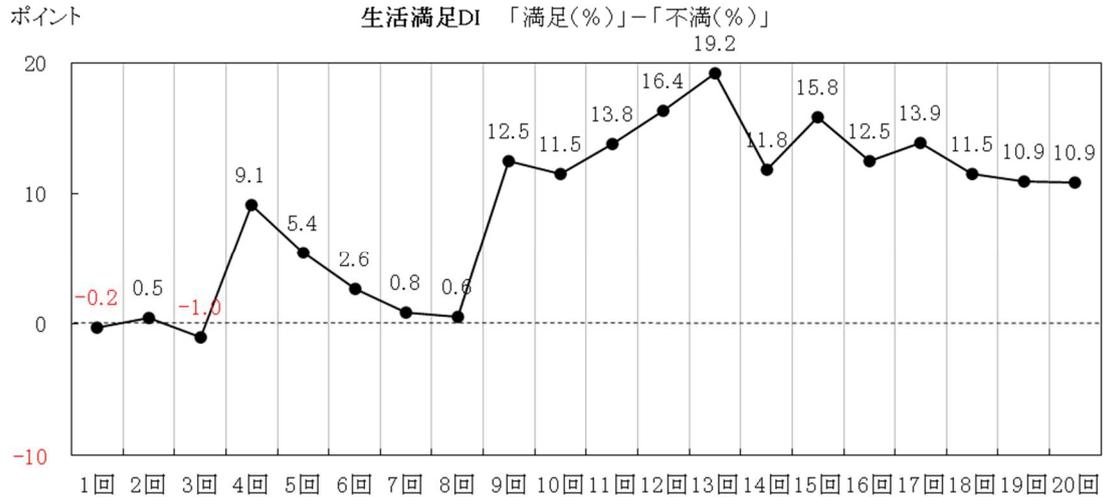


賃金収入の増減別に見た世帯の暮らし向き(1年前と比べて)

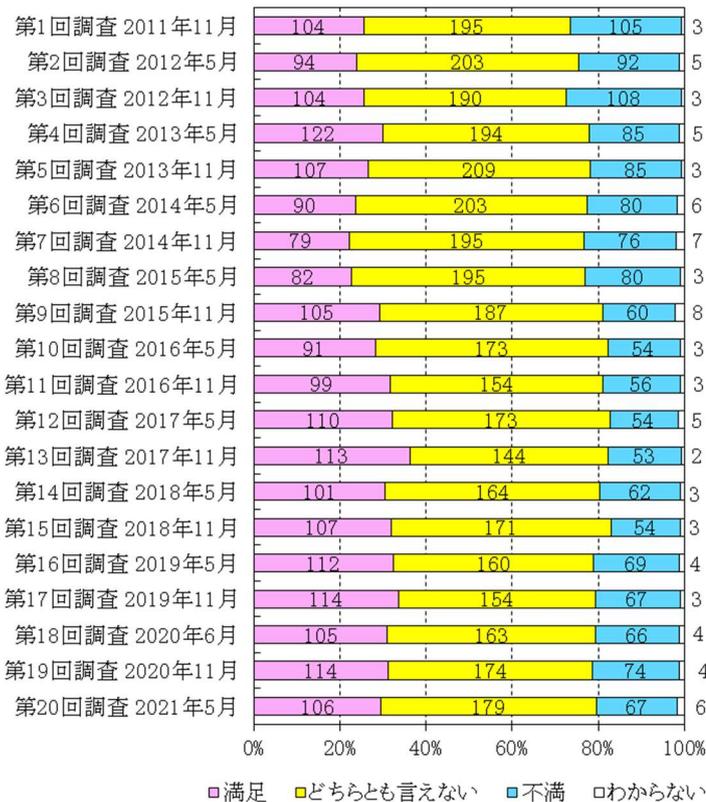


8. 生活の満足感（問10の結果）

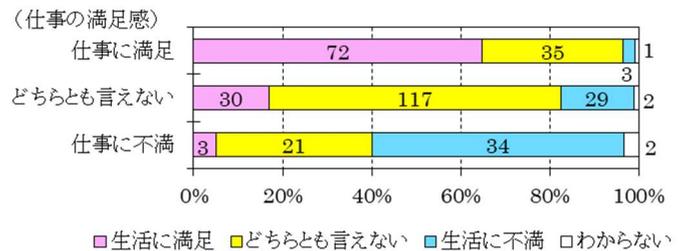
生活満足DIは横ばいで、大きな変化がないのが近年の特徴である。これまでの調査結果と同様に「年収」「賃金収入の増減」「仕事の満足感」「世帯の暮らし向き」との間に関連性が見られた。



問10 現在の生活の満足感



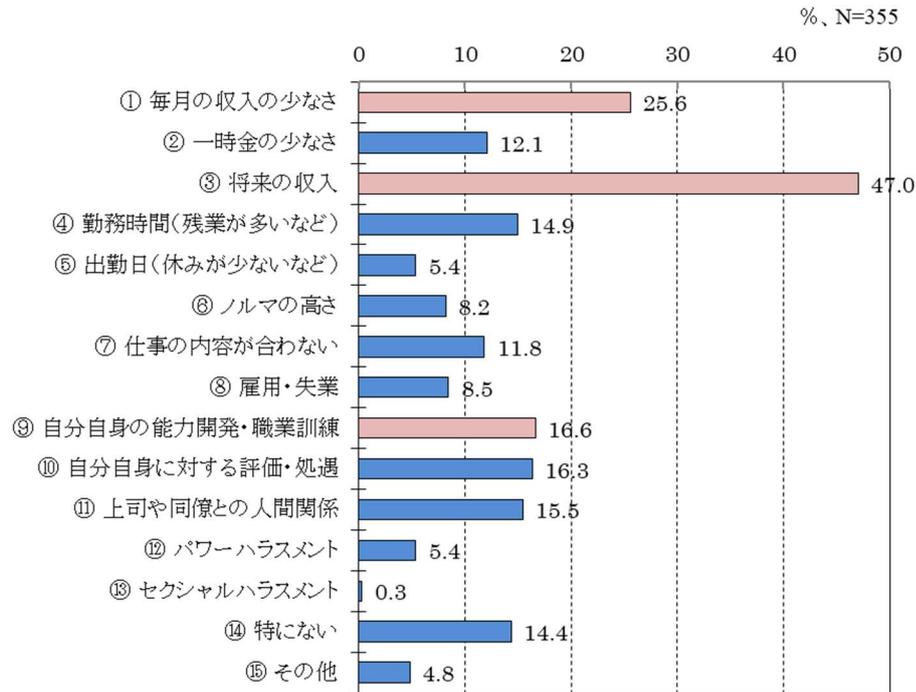
仕事の満足感と生活の満足感



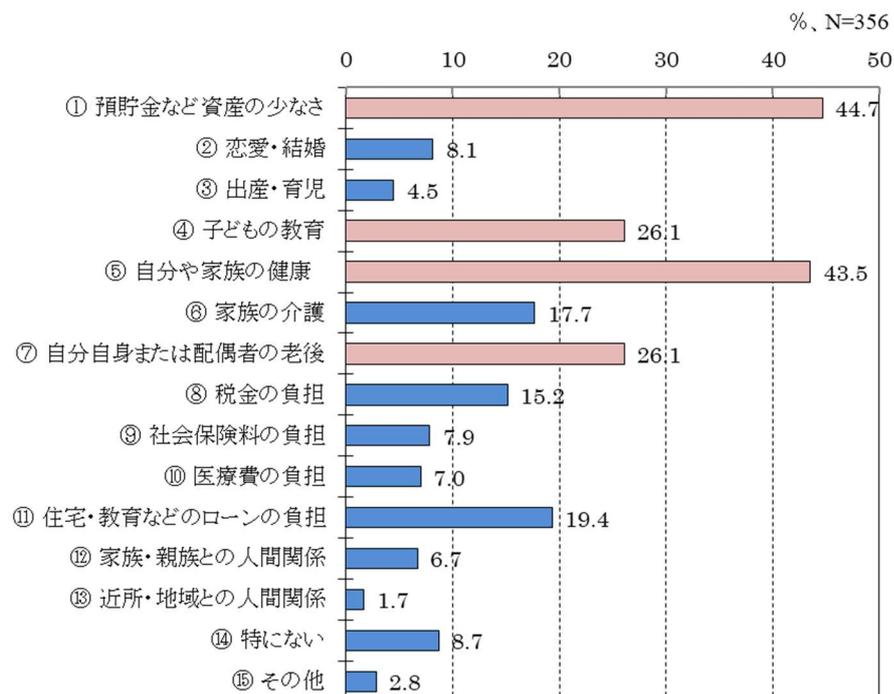
9. 仕事の不安・悩み、生活の不安・悩み（問6、問11の結果）

仕事に関連した不安・悩みとして、「将来の収入」を選択した割合が47%になり突出して高かった。生活に関連した不安・悩みとして、「資産の少なさ」「自分や家族の健康」を選択した割合が高かった。続いて、「子どもの教育」「自分自身または配偶者の老後」を選択した割合が高かった。アンケート回答者の多くが、将来への不安を抱えている。

問6 仕事に関連してこの半年特に不安に思ったこと・悩んだこと(3つまで選択可)



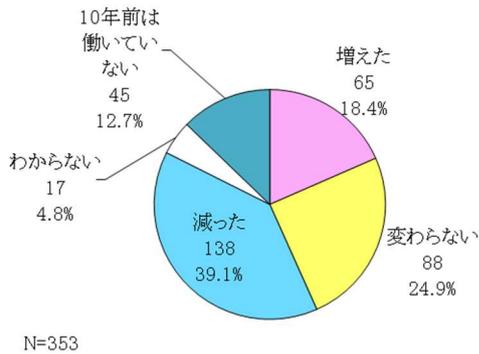
問11 生活に関連してこの半年特に不安に思ったこと・悩んだこと(3つまで選択可)



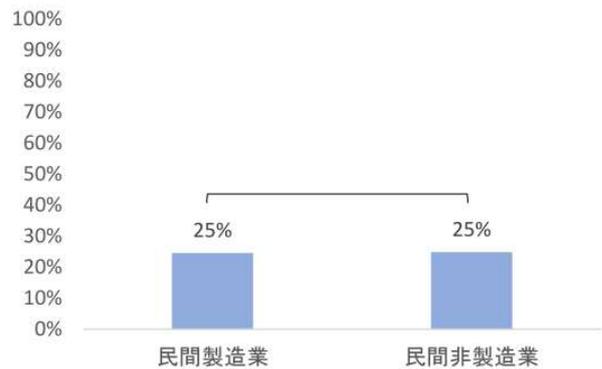
<特別調査> 10年前との比較 ～実労働時間、賃金収入、暮らし向き～

10年前と比べると、実労働時間は減った、賃金収入は増えた、暮らし向きは変わらないという回答が最も多かった。また、これらを業種別に見たところ、実労働時間に差はなかったが、賃金収入および暮らし向きに関しては、民間製造業の方が非製造業に比べて改善が大きかった。これは対象とするマーケットの違いが反映されているものと思われる。

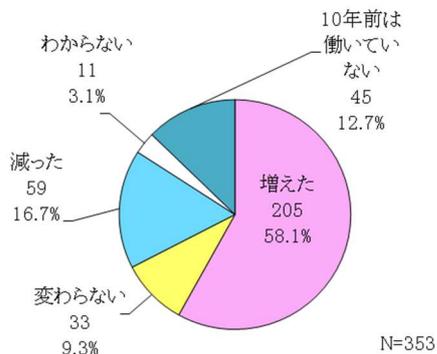
問12 10年前と比べた実労働時間の変化



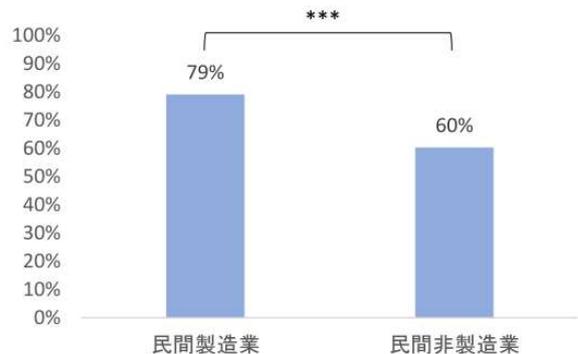
10年前と比べて実労働時間が「増えた」と答えた人の割合



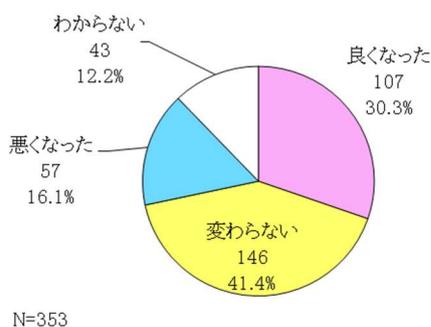
問13 10年前と比べた賃金収入の変化



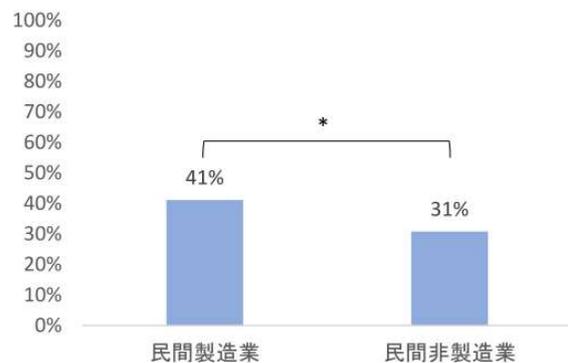
10年前と比べて賃金収入が「増えた」と答えた人の割合



問14 10年前と比べた暮らし向きの変化



10年前と比べて世帯の暮らし向きが「良くなった」と答えた人の割合



注) ***及び*は有意水準1%、10%で差があることを表わす。